

アナログ関連アクセサリーの試聴(19)
—THE FUNK FIRM の Achromat (6) —

1. はじめに

システムに何らかの手を加えた場合、その音質を試聴して報告するとともに、TASCAM DA-3000 で録音して残すことにしています。Garrard 401 の再構成(5)では、Garrard 401 の再構成後の音質を記録、確認するために録音しています。今回、Achromat の効果を録音で確認してみます。

2. Achromat の録音と試聴方法

録音は、Garrard 401 から 47 研のフォノイコの 4718 信楽からの P&G フェーダーの出力を TASCAM DA-3000 のアナログ入力し、DSF 5.6MHz で録音します。TASCAM DA-3000 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

TASCAM DA-3000 の SD カードから録音済音源を fidata にコピーし、fidata から読み出して、MYTEK Brooklyn DAC+経由で再生します。

今回、Achromat の効果を録音しますが、Garrard 401 の再構成(5)以降、フォノイコを替えたりなどと種々条件が変わっていることから Achromat と同時に銅板と和紙のシートで録音しなおして比較します。

3. Achromat の試聴結果

銅板と和紙のシートでも、Garrard 401 の再構成や Quantum Damping の導入の効果で、随分とレベルが上がっていますが、それでも Achromat の効果が聴き取れます。

倍賞千恵子のボーカルでは、Achromat の方が、前報(18)における Achromat の効果と同様、銅板と和紙のシートより、声の微妙なニュアンスが伝わってきますし、エコーが、より明瞭に聴き取れます。

ファリャの三角帽子では、前報(18)における Achromat の効果と同様、やはり Achromat の方が、銅板と和紙のシートより、音場感がリアルで、オーケストラのメンバーの掛け声やカスタネットの数が増えたように聴こえます。銅板と和紙のシートでは、音の分離が不十分で幾分騒がしく聴こえます。

バッハの無伴奏チェロ組曲では、Achromat に替えますと、前報(18)における Achromat の効果と同様、銅板と和紙のシートで残っていた僅かな弦の硬質感が払拭され、倍音が豊かに聴こえてきます。

全般的に言えることは、ターンテーブルシートが同じものになったことにより、LP-

12 と Garrard 401 の両システムの音が似通ったものになったことです。

4. まとめ

Garrard 401 によるアナログ盤の再生における DSD 録音において前報 (18) の LP-12 の場合と同様、Achromat の効果が確認できました。

以上